

勝瀬小学校版ピア・サポートの実践

◆ 所属・提案者（◎代表者）

富士見市立勝瀬小学校

◎楠井 陽子・関崎 純也・中野 雅和・
鎌田 千穂・小森 唯

ねらい

本校は、これまでに、不登校や、集団規律の乱れなど、多くの教育課題を抱えてきた。そこで、現在、本校では、「子どもも保護者も勝瀬小でよかったと思えるために、仲よく本気で最後までがんばる子の育成」を目指し、Ⅰ「確かな学力の育成」、Ⅱ「豊かな心とあたたかい人間関係の育成」、他3本の5つを柱とした学校経営方針のもと、学校運営の改善・向上を図っている。

このような背景の中で、本校生徒指導・教育相談部では、学校経営方針5つのⅡである、「豊かな心とあたたかい人間関係の育成」の具現化に向け、全校児童を対象に「勝瀬小学校版ピア・サポート」の導入・実践を試み、次の点をねらいとした。

- 子供が他者への関心を持ち、人の心を察する能力を育てる。
- 子供のコミュニケーションの能力を育てる。
- 子供が主体的に問題解決に取り組み、よりよい人間関係を築く能力を育てる。

実践内容

（1）実践対象者

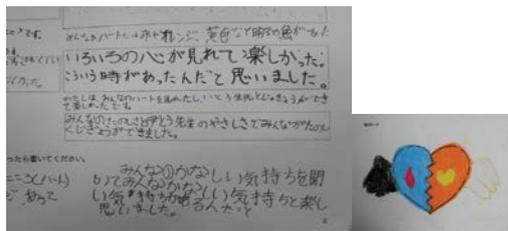
勝瀬小学校全校児童を対象とした。

（2）実践内容

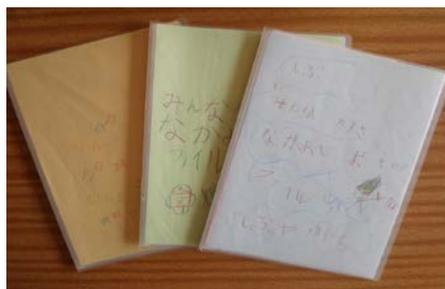
3つの活動段階を設定した。

① ベーシック活動

全校児童が取り組む活動。特別活動や総合的な学習の時間などの一環として、ピア・サポートトレーニング（写真1）や、学校行事などと連携したピア・サポート活動を行った。また、ベーシック活動には、福井県の元小学校教諭、岩堀美雪先生が提唱する宝物ファイル（写真2）も取り入れ実践した。



【写真1 トレーニング「私のハート」】



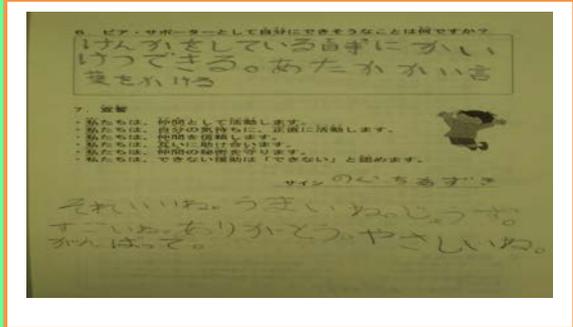
【写真2 宝物ファイル】

② アドバンス活動

ピア・サポート活動に興味を持った児童が、主に学級内などで行う活動。アドバンス活動を行うにあたっては、まず、希望者を対象にピア・サポーターとしての心構えなどについて昼休みに1回、簡単な講習（写真3、写真4）を行った。その後、それぞれが立てた計画に沿って活動し、月に一度、活動についてのアンケートを提出してもらい、必要に応じて教師たちが支援や助言を行った。



【写真3 養成講習】



【写真4 養成講習テキスト】

③ リーダー活動

主に、高学年のピア・サポーターが中心となって、学校全体に対して行う活動。月に2回ほど、ミーティング（写真5）を行い、活動計画を立て実践した。主な活動事例としては、「放送によるいじめ防止のよびかけ」「お悩み相談室」などである。また、前述の活動に加え、日本ピア・サポート学会認定コーディネーターの支援をいただきながら、年間10回程度、身近に起きたいじめを劇として再現する「いじめ再現劇づくり」を行い、全校に対しいじめ防止の呼びかけ（写真6）を行った。



【写真5 リーダー会議】



【写真6 いじめ再現劇】

(3) 効果測定

① 学校環境適応感尺度（アセス）

「学校環境適応感尺度（アセス）」（以下アセス）を平成25年5月から平成29年5月までの5年間毎年、5月上旬、12月中旬に3年生以上の各クラスで実施した。

実践の成果や課題

【成果】

- ① 互いに認め合い、学び合う児童の育成
アセス（データ1）の結果から、友人的サポート感、向社会的スキル、非侵害的関係の数値が向上しており、児童相互の人間関係がよくなっていると考えられる。
- ② いじめ等の減少
アセス（データ1）の結果から、非侵害的関係の数値が向上しており、児童相互の侵害が減っていると考えられる。
- ③ 教職員の指導力の向上
アセス（データ1）の結果から、教師サポート感の数値が向上しており、教職員の指導力の向上が図られたと考えられる。
- ④ 不登校数の減少
不登校件数（データ2）に示すように、不登校数が減少している。

【課題】

- アセス（データ1）の結果から、学習的適応感と生活満足感の数値が下降している。教科指導の充実や保護者地域との連携を推進する必要があると考えている。

実践時期・期間

平成25年9月

～

平成29年8月31日

【現在継続中】

【データ1 アセス結果】

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
生活満足感	51.60	51.11	54.61	52.52	54.72	54.21	54.57	54.54	54.39	
教師サポート	51.74	51.33	56.29	52.83	56.10	56.48	56.21	57.97	58.79	
友人的サポート	52.17	51.81	54.79	54.43	54.57	55.19	54.37	56.12	56.65	
向社会的スキル	51.22	49.71	52.06	51.85	53.56	52.83	53.96	54.24	55.30	
非侵害的関係	50.40	53.34	53.85	53.17	54.24	54.57	54.44	54.7	54.79	
学習的適応感	51.69	51.94	54.20	54.06	53.90	53.6	53.26	53.13	52.70	

不登校件数(病気、経済的理由を除く年間30日以上欠席)

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度 8月31日現在
3	4	1	0	0

【データ2 不登校件数】

他校で導入するポイント

- 「ピア・サポート」という聞きなれない言葉にとらわれず、「仲間同士の支え合い活動」として、既存の教育活動をベースに実践する。
- 教育センターや教育委員会等専門機関との連携により、専門的視点からも指導・助言をもらう。
- 各教科・領域の教育活動もこれまで同様に重視する。

セールスポイント

- 実感できるまで時間はかかるが、確実に効果を生み出せる。
- 特活など、すでに実践している教育活動の中でもできる。
- 教師の指導力が向上し、学校全体の雰囲気が変わる。

失敗しないための方策

- 実践する前に校内で共通理解を図る。
- できそうなところから取り組む。

こうすればより高い効果が得られる方策など

- 例えば、教育相談主任、特別活動主任、教頭（管理職）など、中心推進者を3名程度決め、組織的に運営・実践する。
- ピア・サポート活動は、横断的な活動のため、各教科・領域の教育活動との連携を図る。

外部有識者からのコメント

- いじめの再現劇を実施する際には、加害者や被害者がいる中では、十分に配慮する必要がある。
- こうした活動を、特別活動や教科指導に反映しながら全校的な取り組みに発展させると、さらなる相乗効果が期待できるであろう。
- ピア・サポートは同じ課題を抱えたもの同士の支え合いであるが、ともすると一方に負担がかかるなど、精神的な不安を起こしやすい。コーディネートする教師の力量やこうした活動への理解が問われる。